

2010年度 運動スローガン

20周年の節目の年に
～思いをつなぐ いのちをつなぐ～

基本方針

- 1 認定特定非営利活動法人としての社会的責任を果たし、事業の着実な実行を通して社会の期待に応えます。
- 2 加盟団体（正会員）、賛助会員、協力企業・団体等との連携を強化し、大きな協働体として患者支援に取り組みます。
- 3 そのために、全国協議会の組織運営体制を改革し、効率的・効果的な業務遂行に努めます。
- 4 移植を望む全ての患者にその機会が得られるよう、更なるドナー登録拡大、並びに理想の「造血細胞バンク」誕生を目指して行動します。

具体的方針

1 患者支援活動

- (1) 「白血病フリーダイヤル」による患者相談を毎週土曜日に実施する。そのために、相談員の拡充・レベル向上、ニーズの把握、PRに取り組む。インターネットを活用した相談方法についても検討する。
- (2) 「佐藤きち子患者支援基金」による闘病のための経済的支援をおこなう。そのために、積極的に寄付を募り増資を図る。
- (3) 「白血病と言われたら」により、患者やその家族などに闘病に有用な情報を提供する。公立図書館等への蔵書を働き掛け、多くの人が活用できる環境をつくる。次回改訂に向け、QOLに関する内容の充実についても検討する。
- (4) 闘病にかかる患者の経済的負担軽減のための、公的支援確立に向けた調査研究及び要望活動を行う。
- (5) 患者の社会復帰を支援するため、全国協議会関連業務を通じた就業の機会等、社会参加の場を提供する。

2 ドナー支援活動

- (1) 「ドナーサポートダイヤル」により、骨髄提供やドナー登録に関する相談に応じる。インターネットを活用した相談方法についても検討する。
- (2) 「ドナーになるってどんなこと？」を増刷してドナー登録者や職場等に配布し、骨髄提供について正しく理解してもらう。
- (3) ドナーが提供しやすい環境を整備するため、社会への働きかけを行う。

3 社会啓発活動

- (1) 機関紙である全国協議会ニュースを毎月発行し、情報をタイムリーに発信する。
- (2) HP等のインターネットを活用した情報発信を充実させ、とくに若年層に向けたコンテンツの充実を図る。
- (3) 「箱根駅伝」「バイシクルライド」等のイベントと連携した啓発活動に積極的に取り組む。
- (4) 各地加盟団体との連携のもと、さまざまな機会を利用して講演会等の普及啓発活動を実施する。
- (5) 若年層への啓発として、学校行事としての職場訪問、ボランティア体験学習等を積極的に受け入れる。また、高校や大学のボランティアサークル等との連携を図っていく。
- (6) 「いのちの輝き展」「あやちゃんの贈り物展」「MAMOのメッセージ展」等を活用した啓発活動に取り組む。加盟団体による活用のほか、行政、企業や他団体による活用を働き掛ける。さらに、移植を受けて元気になった患者さんの作品を新たにコンテンツに加える。
- (7) 「ありがとうキャンペーン」の桜の状況を追跡調査し、引き続き社会に感謝の思いを発信する。

4 普及啓発グッズの活用

- (1) サンリオのご協力によりキャラクターを使用した普及啓発グッズを作成し、各種イベントにおいて活用する。本事業の一部は収益事業として実施する。
- (2) より多くの方が接することのできるような新たなグッズやその活用方法を開発する。

5 20周年記念事業

- (1) 設立20周年を記念し、「20周年記念大会」を東京で開催する。
- (2) 20周年誌を発行して患者支援活動、骨髄バンク・さい帯血バンク支援活動をPRする。
- (3) 「医療講演会」を加盟団体と協力して全国で開催する。第1回は、20周年記念大会に合わせて東京で実施する。
- (4) 福島県骨髄バンク連絡協議会との共催で「20年目の同窓会」を福島県裏磐梯で開催し、骨髄バンク・骨髄移植の意義を広く社会に伝える。
- (5) 記念グッズを作成し、啓発活動に活用する。
- (6) 各種の事業を通じ、全ての方への感謝の気持ちと、一人でも多くの患者が望む治療を受けられるようにするために、これからも行動していく決意を伝える機会とする。

6 要望請願活動

- (1) 患者会等との連携や骨髄バンク意識調査から、患者や骨髄提供希望者等のニーズを把握し、国や関係機関に要望する。
- (2) 「将来像」で掲げた理想的な造血細胞バンクの実現に向けて引き続き働き掛ける。

7 シンポジウム・セミナー事業

- (1) 「ブロックセミナー」を全国8ブロックで開催し、地域ごとの連携強化によるボランティア活動の活発化を図る。
- (2) 「第5回公開フォーラム」を関係機関との共催で開催し、課題解決に向けて協調して取り組む。

8 調査・研究事業

- (1) 海外における患者支援・患者擁護、造血細胞移植の法制度等を日本のシステム改善の参考とするために、欧米、アジアに視察チームを派遣して実情を調査する。
- (2) 造血細胞移植学会に参加し、最新情報を収集する。
- (3) 非血縁者間末梢血幹細胞移植に関する動向を調査する。

9 骨髄バンク事業・さい帯血バンク事業、献血事業との連携

- (1) 関係機関からの要請により、役員・委員等を派遣する。
- (2) 日本赤十字社、各地のボランティア団体と連携し、献血推進に協力する。
- (3) 財団、さい帯血バンクネットワーク、日赤や行政等との意見交換を適宜実施し、情報の共有化を図る。公開される会議は積極的に傍聴して、情報収集する。

10 ボランティア団体支援

- (1) 加盟団体や協力団体等との協働事業に取り組み、各地での活動を支援するとともにボランティアネットワークの強化を図る。

11 組織強化

- (1) 全国協議会の最高意思決定の場である通常総会を開催する。理事会は原則として毎月開催する。
- (2) 加盟団体間の意見交換の場として代表者会議を開催する。
- (3) 認定NPO法人のメリットを活かしたPRを展開し、新たな協力者を開拓する。

12 その他

上記1から11に掲げたものの他、患者やドナー支援、造血細胞移植医療の充実のために必要な事業を実施する。